

令和3年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「 がんばれ、さぼうダム 」

鹿児島県 南九州市立大丸小学校 1年 ^{すえなが}末永 ^{わこ}和心

5がつに、1ねんせいから4ねんせいまでいっしょに、さぼうダムのこうじげんぼのけんがくにいきました。

さぼうダムに行くのは、はじめてだったので、どんなところかなあ、おみせみたいなどころかなあとおもいました。

さぼうダムにつくと、さぎょうふくをきたおじちゃんたちが6にん、にこにこわらいながらまっ

「さぼうしていち」とかいてあるかんばんのまえで、おはなしをしてくれたおじさんが、

「だれのおとうさんか、わかる。」

と、わたしにはなしかけてきました。

マスクをつけたおじさんのかおをみて、ほいくえんでいっしょのクラスだったそうたくんのおとうさんだとわかりました。

そうたくんのおとうさんにあんないされて、わたしたちは、さぼうダムのすぐちかくまであるいていきました。さぼうダムは、とてもおおきくて、どっしりしていました。

「このこうじがはじまったころに、そうたがうまれたんだよ。」

と、おじさんはおしえてくれました。あかちゃんだったわたしたちも、いまでは1ねんせい。さぼうダムのこうじというのは、ながいねんげつがかかるんだなあとおもいました。

ダムのうえのほうには、たかいきがたくさんありました。おおあめがふって、どしゃくずれがおきたり、きがたおれてきたりしたときに、このダムが、まもってくれるんだとおもったら、ちかくにいてなでなでしたくなりました。

7がつに、しずおかけんのあたみしというところで、「どせきりゅう」さいがいがおこりました。テレビのニュースで、ちゃいろのつちが、かわのようにながれてくのを見ました。そして、そのつちのかわは、はやいスピードで、いえやくるまをおしながしていきました。

あつというまに、おおきないえやくるまが、つちのなかにのみこまれていくのを見て、びっくりしました。あんなにかんたんにながされていくなんて、こわいなあとおもいました。

たくさんのひとがなくなったり、ゆくえふめいになったりして、かぞくのひとたちは、きっとかなしいだろうなあとおもいます。わたしは、だいすきなかぞくがとつぜんいなくなったら、かなしくてかなしくて、まいにちないているかもしれません。

「ひなんくんれんはしていたけど、まさか、ほんとうにさいがいがおこるとはおもっていなかった。」

と、インタビューされたしょうぼうだんのおじさんは、ざんねんそうにはなしていました。

さぼうダムは、わたしたちのいのちをまもるために、がんばってくれているのだとおもいます。あのさぼうダムのこうじがおわったら、またけんがくにいて、おおきなこえでおれいをいいたいです。